



発行所 東海地方会ニュース編集事務局
〒541-0056
大阪府大阪市中央区久太郎町2-1-25 JTBビル7F
株式会社 JTB コミュニケーションデザイン
ミーティング&コンベンション事業部内
FAX: 06-4964-8804
発行責任者 齊藤 政彦

題字 血井 進筆

巻 頭 言

第 92 回日本産業衛生学会 開催報告 ご支援、ご協力に深く感謝申し上げます

企画運営委員長 齊藤 政彦
大同特殊鋼(株) 統括産業医



皆様方の多大なるご協力・ご支援の下、第92回日本産業衛生学会が無事かつ盛会に終了したことを、ここにご報告申し上げます。今回の学会では企画の提案、演者の選定、座長や演者の

労、など東海地方会の方々に多くの役割を担っていただき、深く感謝申し上げます。一般演題が583、企画プログラムは、基調講演1、教育講演9、特別講演7、シンポジウム18、パネルディスカッション7、フォーラム7、特別プログラム5、自由集会41と充実した内容でした。真夏日を記録する少々暑いほどの好天に恵まれ、多くの方にご参加いただき、学生を含めた有料参加者数が4782名と過去最高を記録しました。さらに名誉会員や国際交流企画などの招待者、市民公開講座への無料参加者を含めれば、五千人を超える方にご参集いただきました。

今回はメインテーマを『現場への貢献！～人、企業、社会を支える～』としました。特徴的なプログラムとしては、JR東海の柘植会長、トヨタ自動車の河合副社長、三菱重工の二村取締役など、大企業の経営の中枢で活躍されている方々に、普段聞けない貴重なご講演をしていただきました。他の企画も、立ち見者が出る程の盛況ぶりでした。さらに懇親会では名古屋メシをご堪能

いただきつつ、最優秀演題賞の発表と表彰、国際交流企画のアワード授与などを含め、会員相互の懇親を深めていただきました。

さて、産業衛生学会は、企業立国である日本を支える労働者を健康面から支援するのが使命です。働き方改革関連法の成立に伴い、労働安全衛生法が改正され、産業医・産業保健機能の強化が図られます。過重労働対策、ストレスチェックの実施、化学物質管理、病気と仕事の両立支援なども重要なテーマです。今後も産業衛生学会の社会的役割が増大することは間違いのないでしょう。そんな中、第92回日本産業衛生学会が、少しでも資すればこの上ない喜びです。どうもありがとうございました。



運営実行委員のメンバー

次号で特集記事を掲載します

開催報告

平成 30 年度日本産業衛生学会東海地方会学会を開催して

中部大学生命健康科学部保健看護学科 城 憲 秀



平成 30 年 11 月 24 日 (土) に名古屋市中区鶴舞の中部大学三浦記念会館にて東海地方会学会を開催いたしました。この学会では、平成 30 年度よりスタートした第 13 次労働災害防止計画を考えるべく、「13 次防への期待 - 産業保健のボトムアップを目指して-」を大会テーマとし、国の新しい労災計画を、各職場における産業保健レベルの向上にどう活かすかを意図して、シンポジウムや諸プログラムを企画いたしました。

本大会には、合計で 101 名の会員、非会員の皆様に参加していただきました。この数は、従来の年次学会に比べて決して多い数ではありませんが、認定産業医や産業看護職の諸単位認定を受けませんでしたので、参加者は純粋に地方会学会に関心があった方々だったものと推察しています。そのなかで 100 名を上回る皆様に参加していただいたのは、東海地方の産業保健に対する学問的関心が高いことをあらためて認識いたしました。

大会のプログラムは、午前中に一般演題とミニフォーラム、午後に特別講演、シンポジウムを実施いたしました。一般演題には 6 題、ミニフォーラムには 9 題の発表がありました。ミニフォーラムは、一般演題に申し込みされた方々の発表内容から比較的近い分野の演題を選択し、2 つのテーマのフォーラムを計画いたしました。ミニフォーラムは、本大会で採用された新規企画

であり、ベテラン、中堅、新進気鋭の研究者が各テーマで討議するという形で進められ、テーマごとに熱心な議論がなされました。

午後は、地方会会長挨拶、総会が開催されたのち、特別講演として「13 次防への期待 - 13 次防の概要と目指す方向-」のタイトルで、愛知労働局労働基準部の地方労働衛生専門官である大久保克己先生より、13 次防の主要な内容と今後の産業保健の方向性について概説していただきました。さらに、その特別講演を受け、後藤義明先生 (富士電機三重工場) と梅津美香先生 (岐阜県立看護大学) の座長で、シンポジウム「13 次防への期待-産業保健のボトムアップを目指して-」を開催いたしました。シンポは、実際の現場で実務に従事している (あるいは、その経験のある) 先生方に、13 次防に掲げられたいくつかの課題に関して話題提供をお願いいたしました。「過重労働対策のあり方」を山本誠先生 (ヤマハ健康管理センター) に、「職場における両立支援の基本」について渡井いずみ先生 (名古屋大学大学院医学研究科看護学専攻) に、そして最後に「若者への産業保健教育の期待」のテーマで榎原洋子先生 (愛知教育大学) にご講演をいただきました。それぞれの先生の発表は聞き応えのあるものであり、まとめの討議もフロアから活発な意見が出され、充実したものになったと思っています。

上述のように、今回の大会は人数的には非常に多いという大会ではありませんでしたが、逆にコンパクトな大会となり、意見や討議などが積極的に行われ、参加された皆様には満足のいく大会になったと自負してお

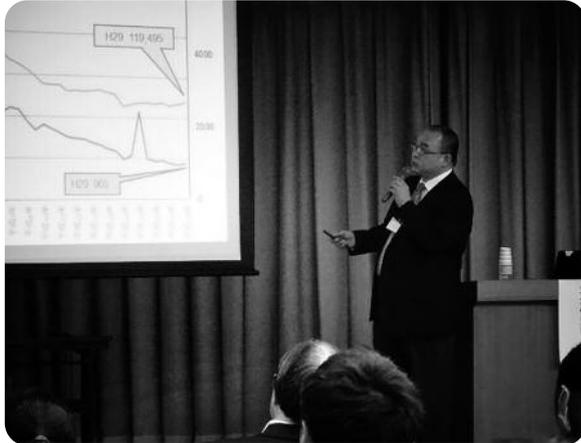


ミニフォーラムの風景 左：A会場 右：B会場

ります。今回の大会で発表された種々の情報が、各職場における産業保健活動の活性化につながることを期待したいと思います。

最後になりましたが、ご参加いただいた皆様とリわけ日本産業衛生学会東海地方会会員の先生方には心よ

り感謝いたしております。さらに、運営にあたり中部大学の白石知子、藤丸郁代、三輪美紀、宮武真生子、谷岡晶子の各先生、日本福祉大学の水谷聖子先生、名古屋市立大学の山口知香枝先生には多大なご協力をいただきました。ここに深く御礼申し上げます。



特別講演される大久保克己先生（愛知労働局）



活発な意見交換は行われたが和気藹々とした
雰囲気のスィンポジウム

2018年度日本産業衛生学会 東海地方会学会に参加して

東海旅客鉄道株式会社 健康管理センター 保健師 正木 梓



学会が開催されました。

午前是一般演題6題のご発表があり、労働者の加齢にともなう歩行能力低下やストレスチェック制度等について、学術的なエビデンスをお聴きすることができました。続いて、ミニフォーラム形式で「労働者の生活習慣指導のありかた」と「化学物質のリスクアセスメント」について、テーマごとに4人の演者のご発表をお聴きした後、意見交換が行われました。特に交代制勤務者の食事摂取については、就労形態との関係があり、食生活と健康との関連に関する知識や、勤務時間と食事へのアクセスのしやすさなど、産業保健として関われ

る点が多いということを確認できました。

午後は参加者もさらに増えた中、愛知労働局労働基準部健康課 大久保克己先生の特別講演「13次防の概要と目指す方向」をお聴きしました。13次防（第13次労働災害防止計画）は働き方改革関連法と密接に関連した内容となっており、高齢者や疾病を抱えた労働者といった様々な労働者の安全と健康の確保を目標として、重点的に取り組むべき事項を策定されていることがわかりました。続いてシンポジウムにおいて、ヤマハ株式会社人事部環境安全グループの山本誠先生から「過重労働対策のあり方」、名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻の渡井いずみ先生から「職場における両立支援の基本」、愛知教育大学保健体育講座の榊原洋子先生から「若者への産業保健教育の期待」についてご講演いただきました。産業医の過重労働面談と組織への対応、病気の治療、子育て・介護と仕事との両立支援、大学における安全衛生教育といった各重点事項についてわかりやすくお話いただきました。さらにそれらを踏まえて、産業保健のボトムアップ等について、活発に議論が交わされました。

一日を通して 13 次防の 8 つの重点事項についての理解を深めることができ、大変有意義でした。また 13 次防は、働き方改革関連法と関連すると同時に、就業構造の変化等を踏まえた計画にもなっているため、“ボト

ムアップ”と“風土作り”がキーワードであり、私たち産業保健スタッフは他職種と連携しながら、研鑽を積んで変化に対応していく必要があると感じました。

第 13 回日本産業衛生学会東海地方会産業歯科部会研修会ご報告

鈴木労働衛生コンサルタント事務所 鈴木史香



2018年11月25日、名古屋市千種区のルブラ王山にて開催されました東海地方会産業歯科部会の研修会のご報告をさせていただきます。

今回の研修会は、名古屋女子大学食物栄養学科准教授の近藤浩代先生に

よる「栄養と運動と健康について」というテーマで講演していただきました。

昨今では、「食育」という言葉が浸透しておりますが、実際に我々の健康管理は自覚しなければならない点が見過ごしがちであり、問題から目を背けている傾向があります。また、さまざまな健康情報をピンポイントでみているだけで、線で繋ぎ合わせなければならないということを強く感じるお話でした。その中でも印象深かったものを 3 項目ほどご紹介します。

まず生活習慣病は現代人にとって切っても切り離せない問題ですが、実は死亡原因の上位に挙がっています。生活習慣病である悪性新生物、心疾患、脳血管疾患は主要死因の約 6 割にも上る！ようです。生活習慣病と聞くと、食生活や運動不足に気をつけないと…とは思いつつもそのまま放っておく傾向にあります。背景

には寿命を左右しかねない危険分子が潜んでいることをもっと自覚しなければなりません。

2 つ目に、健康づくり対策にもっと目を向け、広めていく必要性を大いに感じました。第 1 次国民健康づくりは 1978 年に始まり、現在では第 4 次まで進み、健康日本 21 も栄養・食生活、身体活動・運動、休養の項目別に細部にわたる目標項目が掲げられていますが認知度は低く、これは内容が浸透していないことが原因の一つではないかと思われま

す。最後に、栄養、運動を同じフィールドで考えていかないと健康づくりは成り立たず、平均寿命は延びても、同時に寝たきり期間が延びてしまい、健康寿命を延ばす本来の目的を達成できないことを強く感じました。日本の平均寿命は世界トップレベルですが、約 10 年の寝たきり期間が潜んでいることはあまり知られていません。これは栄養と運動のバランスを保って健康寿命を延ばす必要性があります。

我々、歯科医師は歯の健康を守ると同時に、お口の中からの全身の健康を啓発していかなければなりません。また、健康指導という点から栄養+運動→健康を、いかに多くの人に自覚して実行してもらうかを、馴染みやすいテーマで専門分野の先生からの講演を聞くことにより、産業保健活動においても必要な情報を入手できた大変有意義な研修会でした。



平成 30 年度 東海地方会産業看護部会研修会に参加して

株式会社 FTS 保健師 塚田 梨沙



2018年12月2日に、中部大学名古屋キャンパスにおいて開催されました東海地方会産業看護部会研修会に参加いたしましたのでご報告させていただきます。

研修会では、桃山学院教育大学教育学部の栗岡

住子先生より「業務に役立つ文書作成～産業看護職としてのスキルを磨こう～」についてご講演いただきました。

企業で働かれていた頃のご経験、MBA取得をされるに至った経緯など、ご自身の産業看護職、そして教育者としてのキャリアとご活動もご紹介いただきました。産業看護職の業務につきものである文書作成に、説得力をつけ、相手へ伝える具体的な方法をご講演いただいた後、グループワークにて健康事業企画書の作成、プレゼンテーションを通し、具体的にどのような表現が必要とされるのかを分かりやすくお話いただきました。

プレゼンテーションでは、時間を意識しながらの実践となり、大変勉強になりました。企画書の作成では、まずはビジネスプランを練る重要性、経営者へのポイントを絞った報告のまとめ方について興味深く拝聴しました。コンセプト、企画タイトル、特にキャッチコピー

ーが重要であるとお話が印象的でした。年代、役職問わず、幅広く接する機会の多い産業看護職にとって、文書作成やプレゼンテーションのスキルアップの必要性も示されておりました。

日頃、私自身が業務をする中で上司に伝えきれず、もどかしい経験をしたことも度々ありました。また、文書作成やプレゼンテーションが日頃の仕事に重要なことだと思いつつ、スキルアップをする機会をなかなか持てていませんでした。そのような時にこの研修の機会をいただき、大変貴重な内容で、今後に生かしていける自信となりました。これからの活動の中で、今回得られた内容を実践し、産業看護活動に励んでいきたいと思いました。



グループワーク時の写真、中央は講師

2018 年度東海地方会産業技術部会特別企画開催報告 「化学物質の発がん性と労働衛生管理の在り方」

労働安全衛生コンサルタント 北山 勉



2018年12月15日に、今回で10回目となる東海産業衛生部会特別企画研修会を中部大学名古屋キャンパスにて開催しました。

教育講演の第一部は、三重大学の村田真理子先生に「産業化学物質と発

がん性」と題して、化学物質の発がん機構に関する基礎的な知見について講演していただきました。今回、

DNA 損傷は、DNA がマイナスチャージになっているため求電子物質が「究極発がん物質」となっていること、エームス試験結果と発がん性物質の重なる部分と合わない部分が発がん機構の違いによるところがある等について詳しく学ぶことができました。

第二部は、労働安全衛生総合研究所の甲田茂樹先生に「芳香族アミンばく露と膀胱がんについて」というテーマで講演していただきました。事例として o-トルイジンと MOCA について丁寧に最前線の説明がありました。o-トルイジンでは、作業環境測定及び個人ばく露測定では許容濃度を超える結果は得られなかったが、

尿中o-トルイジンは、特定の作業で高い値を検出し、汚染されたゴム手袋からの経皮ばく露の可能性が示唆されたとのことでした。また、MOCAが経皮吸収することを考慮すれば、リスク評価法を見直す必要があり、現在、安衛研では、芳香族アミンの経皮吸収を評価する試験系を検討中とのことでした。質問の時間に、中部大学的那須民江先生から、膀胱がん発症者と喫煙者との関係について質問があり、膀胱がん発症者には喫煙者が多く、喫煙が間接的に作用している可能性がある」と回答されました。

二人の先生のお話を聞いた後、愛知労働局の大久保克己先生に指定発言をいただきました。まず、現在の有害物対策に係る省令は、すべて労働衛生三管理の考えに基づいて構成され、制定されている。この労働衛生三管理という考え方の中で、唯一、分かりにくい言葉は、「作業管理」で、わかりやすい言葉で表せば、「ばく露管理」であると考えられる。また、通知対象物質673物質にリスクアセスメントが義務付けられているが、リスク低減対策をどうするかについて、事業者が選択できることから、法令の義務付けがないことも相まって、労働衛生保護具での対応が選択されやすい。しかし、そ



教育講演を熱心に聞く参加者

の選定にあたり、必ずしも論理的な選定になっていない事例が散見される。そこで、まだまだ、日本産業衛生学会の役割は大きいのであると発言を締めくくられました。

最後に、産業衛生技術部会会長加藤隆康先生から、本日は最先端の話が聞けたとの謝辞に加えて、最近は作業環境測定機関に測定をお願いし、その結果、環境だけしか見ていないケースがある。産業医、衛生管理者等の衛生管理をする方は、どんな作業をしているのか、一人一人の現場の作業者を見てほしいと閉会の挨拶がありました。



甲田茂樹先生



村田真理子先生



大久保克己先生

産業医部会懇話会報告

聖隷健康診断センター 医務部 産業医 近藤 祥



2019年3月2日にウインクあいちで開催された東海地方会産業医部会懇話会の参加報告をさせていただきます。第一部は国際医療福祉大学 医学部 公衆衛生学 教授 和田耕治先生をお招きし「ベトナムの病院での命を救う

改善活動～大切なことは産業保健から学んだ～」をテーマに講演していただきました。和田先生の国際活動への興味や医師に至る経緯、アフリカへの旅、卒業後の国際医療活動へといった時系列に加え、日本とベトナムの違いを、生活水準や細かな医療状況、両国の国民性や教育の考え方と幅広くお話しいただきました。5Sを通じて自主的に改善活動を行う仕組みを導入されたことやベトナムでは多能工化(仕事を変える/異動を伴うこと)がかわいそうという考え方になってしまうこと、

それを受けて対応された事例が印象的でした。講演後も時間一杯まで多くの質問が寄せられ、大変貴重な機会となりました。

第二部は3名の先生から会員活動報告・検討が行われました。1人目は小職で「企業外労働衛生機関における嘱託産業医のあり方」をテーマに臨床医が専門で産業医が初めての先生にどのように教育・支援していくのが良いのか、実践している活動を報告しました。臨床医から産業医へ仕事を変えられた先生から多くの御意見や賛同を得ることができ、日々の活動への意欲がより一層高まりました。2人目はアイシンAWの村崎元五先生から「異なる企業、異なる立場での産業医業務の違い」テーマに病理医から内科医、産業医への経歴、郵政時代の産業保健体制の構築、アイシンでの現場感が報告されました。質疑応答では、今も従事されている病理医への熱い想いの報告がありました。パナソニック(株) AIS社伊勢工場の山口威俊先生から「私の職場/仕事&グレーゾーン発達障害を考える」をテーマに職場紹介、産業医として日々感じる疑問、特にグレーゾーンの発達障害を抱える従業員に対してどのように支援していくのが良いのか?を先生の実経験を基に報告



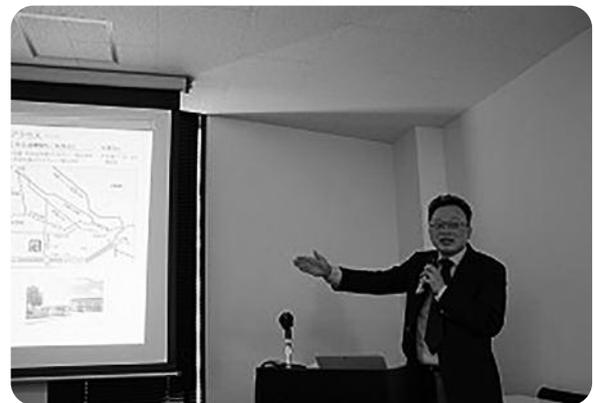
和田耕司先生のご講演

されました。このテーマは同様の経験を持つ聴講者も多かったようで、質疑応答でも様々な視点から、意見が交わされました。

懇話会終了後の懇親会にも多くの先生が参加され、引き続き白熱した議論が行われていました。日々の活動の振り返りや見直す機会として、改めて産業医部会懇話会やその後の懇親会の大切さを感じました。開催準備された先生方お疲れ様でした。来年も楽しみにしています。



村崎元五先生のご報告



山口威俊先生のご報告



近藤祥先生のご報告



懇親会の様子

第 31 回「産業保健スタッフのための研修会」参加報告

中部日本放送株式会社 総務部 保健師 井 沢 かおり



2019年2月2日(土)に開催された、第31回産業保健スタッフのための研修会に参加しました。第1部の教育講演「労働者における睡眠問題 up to date」では、佐々木先生より、ユーモアたっぷり、さすが up to

date! という最新の知見を盛り沢山、睡眠の奥深さを楽しく学ぶことができました。IT化や多様な働き方における労働者の心身問題、セキュリティとしてカギを握るのは疲労と睡眠の科学。睡眠には、脳のオーバーヒートを防ぐ重要な役割がある。中途覚醒も早朝覚醒も含め、睡眠障害は入眠困難に注目。いわゆる爆睡の徐派睡眠が疲労を回復させ、レム睡眠が身体と情動のストレス解消になる。レム睡眠は出る時刻が決まっています。4時～9時ぐらいの朝方、目覚めの良い寝起きの保証につながっている。夜更かしより、不規則が悪影響を及ぼすため、リズムを守ることが重要。適切な睡眠時間は7～8時間。適切な睡眠時間を確保するには、勤務間インターバルは16時間必要。疲労の回復には、外出など遊びも大切。など、新しい知見を得ることができました。

第2部のパネルディスカッションでは、「運転業務従事者における睡眠問題と健康管理の実際」として東海旅客鉄道(株)産業医の遠田和彦先生、「交代勤務者の不眠と高血圧」として鈴鹿中央病院医師の北村哲也先生、「睡眠を考慮した保健指導のポイント」としてヤマハ発電機(株)保健師の荒井方代先生、「睡眠健康障害における歯科保健トピック」として愛知学院大学歯学部歯科医



教育講演：佐々木 司先生



研修企画委員長
渡井 いずみ先生

の水野辰哉先生、それぞれのお立場から、現場の実践を伝えいただきました。「あるある」と深く頷き現場の肌感覚に共感しながら、フロアも交えて有意義にディスカッションすることができました。

現場で、睡眠の保健指導をしていると既存の知識だけでは「手詰まり」になることや、睡眠を意識させすぎて、逆に「寝た子を起こす」ことすらあります。このような研修会に参加して、最新の知見を学ぶことで「次の一手」を産業保健スタッフのプロとして、蓄えておくことも重要だと感じています。エビデンスに基づいた上に、それぞれの現場の実態を理解し、対象者に合った個別の睡眠衛生指導をすることが、労働者の健康と安全を守ることになるということを、改めて感じました。また、睡眠時無呼吸症候群などの治療やコントロールは、乗客や周囲の安全だけでなく、労働者自身の安全も守ることになると共に、会社の安全配慮義務を遂行することにもなるという認識を強くしました。このような研修の機会を得ることができたことに、感謝いたします。



会場風景



パネリストの先生方

受賞記事

日本産業衛生学会功労賞受賞にあたって

(医) 尚豊会 みたき健診クリニック 産業医 鈴木良一



この度の日本産業衛生学会功労賞受賞の件は、私自身、全く念頭に無かった事で大変驚きましたが、ひとえに地方会の関係諸先生のご配慮とご尽力の賜物と心より感謝しております。

私は現在も、みたき健診クリニックで主として産業医活動をしています。産業医としての歩みは、昭和33年に始まり、当時三重県立医大第一内科に所属し、市中の総合病院の内科にて研修・勤務しておりました。教室の指示により当時の(株)東芝名古屋工場に工場医として赴任したのが転機となりました。当時は、工場衛生の先駆者であられた故鯉沼吾先生が名古屋大学教授として産業衛生を指導された直後の時代で、当地方会にはこの分野に多士済々の先生方がいらっした事と、元々中京地区には製造業が多く、更には高度経済成長下大量生産で産

業界も活気がありました。斯様な背景の中で、まだ産業医学関係の医書も少なく、職業病に対する予防規則も完備されていなかったものの、学閥意識の感じられない開放的な雰囲気の中で、多業種の先生方との研修会や交流を通じ得られた資料を基に業務をこなせた事は大変懐かしい思い出となっています。

東芝時代の約34年間は家電機器の生産職場を、その後の関西電力(株)の大飯原子力発電所での9年弱の勤務では原子力発電事業の現場を体験しました。いずれも興隆期の産業界で仕事のできた幸せを感じております。

さて、時代は変わり第四次産業革命の真ただ中、労働環境のグローバル化、事業スピードの迅速化、インボーション化の中、政府の「働き方改革」が進められております。

産業医の業務負荷と責任はさらに増大するものと考えられます。産業衛生分野に伝統ある東海地方会の発展ならびに今後を牽引される多数の新進気鋭の先生方の益々のご健勝と更なるご活躍を祈念し、御礼のご挨拶を申し上げます。有難うございました。

日本産業衛生学会功労賞を賜って

(一財) ききょうの丘健診プラザ 医師 加藤保夫



産業衛生学会功労賞を賜って大変光栄に存じます。1973年3月名市大卒業後、4月に名古屋保健衛生大学(現藤田医科大学)の公衆衛生学に助手として赴任し、研究的には別掲<論文>の如く、我が国有数の窯業生産地

(岐阜県東濃地方)のじん肺集団対象の疫学的研究を、島正吾教授ご指導のもと実施しました。この地には中小零細企業のじん肺中央管理のための健診機関(岐阜県産業保健センター)が存在し、2万人以上のじん肺健診データが集積されていました。

産業衛生学会関連では、1) 地方会理事(本部評議員)、2) 「東海地方会ニュース(HPで参照可)」の編集委員、3) 「職業性呼吸器疾患研究会」の世話人、4) 「産業医・産業看護職・衛生管理担当者のための研修会」の世話人、5) 「東海地方会総会及並びに研修会」(岐阜開

催)の世話人代表として、学会活動に参画しました。1987年大学(助教授)を辞し、以来岐阜県産業保健センター(現ききょうの丘健診プラザ)の医師として一般健診、成人病健診、特殊健康診断及び退職後の手帳健診などの職域健診に携わって来ています。1980年頃には2500人以上いたじん肺者も300人程度に減少した中、最近粉じん歴5年で死亡した急進性じん肺(詳細は“基安発0927”でネット検索)も経験し、当地域の特殊健診、メンタルヘルス、派遣などの現況は、大企業とは別物と改めて感じています。

<論文>じん肺X線重症度のスコア評価法と肺機能との関連性。産業医学, 22(4)1980. 7/スコア評価法によるじん肺X線所見の左右差に関する検討。産業医学, 23(4)1981. 7/窯業じん肺者の肺結核並びに肺がんに関する疫学的研究。労働科学, 67(12)1991. 12/じん肺合併症としての続発性気管支炎の発症率と診断基準の検討。労働科学, 69(6)1993. 6/じん肺症における血清アンギオテンシン変換酵素活性の動態について。日本災害医学会誌, 31(4)1983.

会 員 の 声

産業衛生に取り組んで

名古屋大学 名誉教授 榊原久孝



1972年に医学部入学以降、教員生活を含めて47年間大学で過ごしてきました。大学生の時期が振動障害の特殊健診(1973年)や労災認定基準(1977年)が制定された時期に重なり、1974~75年の医学部生の時に学生サークル(MMF)で民間林業従事者の健康診断にかかわる機会を得ました。数十人の健診参加者で、半数近くが手指のレイノー現象発現、しびれ感、疼痛などを訴え、要治療との判定でした。この学生時代の経験が産業衛生分野に進む大きな契機になりました。

研究においては、振動工具使用に起因する末梢循環障害や末梢神経障害の病態像の解明を中心に取り組みました。全国各地での振動障害の調査や、フィンランドへの留学、振動関連学会などで各国を訪問したことな

ど、懐かしい思い出です。1998年には日本産業衛生学会奨励賞を「手腕振動障害の病態、特に末梢神経障害の病態解明に関する研究」で受賞し、第7回国際手腕振動学会(プラハ)や第1回米国手腕振動学会(シンシナティ)などで招待講演を務めました。また、ISO国際会議への出席や、厚生労働省「振動障害等の防止に係る作業管理のあり方検討会」委員(2006-2009年)を務め、振動ばく露の作業管理などの指針を定めた「振動障害予防対策指針」の改訂に貢献できたことは一つの喜びです。

私と同年代に振動障害の研究者が散見されるのは時代の影響かと思います。当時は、手腕振動や有機溶剤、じん肺など有害要因対策が中心でした。現在は、過重労働やストレスなど労働環境や働き方自体の影響が問題になることが多いように思います。働く人々が健康で過ごせる産業衛生を目指して、産業衛生の活動が発展することを願っています。

新任理事のご挨拶

ブラザー工業株式会社 健康管理センター 産業医 川角美佳



この度、日本産業衛生学会東海地方会の理事を拝命いたしました。今回、このようなご挨拶の機会をいただき、大変光栄に思います。

私は2013年3月に国立病院機構名古屋医療センターで研修医を終了した後に、産業医科大学産業医実務研修センターで修練医を経て、2014年10月からブラザー工業株式会社に専属産業医として入社いたしました。産業医としては6年目であり経験は浅いですが、スタッフに恵まれた環境の中で充実した日々を送っております。

事業場の多くは産業保健専門職が1人~数人程度であるため他の産業保健専門職へ相談をする機会はあまりなく、自分自身の活動の質を向上させていく難しさがあると考えます。例えば、面談の同席や産業医巡視の同行をしてもらい、アドバイスを受けることはほぼありません。そのため、各自の裁量や倫理観に委ねられ

ていることが多く、「自分が下した判断でよかったのか」と戸惑うこともあると思われます。また、産業医の権限強化に伴い、状況に合わせた“絶妙なさじ加減”での助言・指導・勧告が求められており悩むことがあると思われます。

最近では外国人労働者やシニア雇用の促進に伴う課題など産業保健専門職に求められることが多岐にわたります。そのため、担当事業場での活動が他社と比較してどのレベルにあるのかを把握し、他社の好事例を参考にしながら担当事業場の産業保健活動の質を向上させていく必要があります。

日本産業衛生学会東海地方会の産業保健専門職との交流や研修会などを通じて、相談をすることや、自分自身の活動を振り返る機会を持つことはとても有意義だと感じております。

地方会理事としては未熟者ではございますが、地方会理事の名に恥じないよう、努めてまいりたいと思います。今後ともご指導・ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願いいたします。

新任理事のご挨拶

トヨタ自動車株式会社 安全健康推進部 産業医 七浦 広志



この度、日本産業衛生学会東海地方会理事を拝命致しましたトヨタ自動車の七浦と申します。私は20年程度、泌尿器科の臨床医として病院勤務を経験致しました。通常の診療に加えて外科治療、がん化学療法、在宅医療とその後の看取りを経験する中で、病気になる前の健康の大切さを痛感し、企業で働く方への健康の維持と増進を担いたいと考え産業医へと舵を取りました。産業保健の分野は非常に多岐にわたり、大変やりがいを感じます。産業医、産業保健スタッフが必要とされるシーンが2次、3次への対応から0次、1次予防へシフトしていることも感じます。まさに「健康は当たり前のもではなく守り、そして一緒に作り上げていくものである」ということを共有する必要があります。本年

4月から「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」が施行され産業医の権限が強化し、また両立支援等が加速するなど産業保健全体にさらに注目が集まり、われわれが今まで以上に必要とされ、そして活躍出来る状況の到来です。私の役目は従業員の方に対して「定年の年齢になってもまだまだ元気」を目指して心と身体の健康づくりです。また海外勤務の担当をさせて頂いています。海外で生活し業務を遂行することの大変さ、環境や言語、通常医療や健康診断に至るまで様々なシーンで日本との相違を感じます。ある程度グローバルな視野での考え方も身に付けることが出来ました。とはいえまだまだ諸先輩方に教を頂く立場の私が理事に就任させて頂き、身に余る光栄と存じますとともに、その責務を全う出来ますよう努力する所存です。皆様のご指導ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

新任理事のご挨拶

ブラザー工業株式会社 人事部安全防災G健康管理センター 保健師 小嶋 夏弥



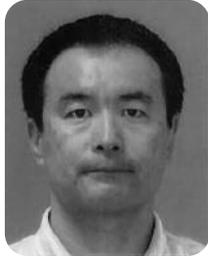
この度、日本産業衛生学会東海地方会の理事を拝命いたしましたブラザー工業株式会社の小嶋と申します。このようなご挨拶の機会を与えて頂き、大変光栄に思います。私は2013年に産業医科大学を卒業し、同年よりブラザー工業株式会社にて保健師を務めています。これまで私が主に担当してきた業務は新入社員教育、30歳の従業員を対象とした健康面談、メンタルヘルスセルフケア講習です。そのため若年者の健康づくりに関わる機会が多くありました。それらの業務経験から「20・30代が健康で自分らしく元気に働くためにどのような産業保健活動が必要か」ということに関心を持っています。

現時点では、若年者への生活習慣病予防に関する効

果的なアプローチは何か、記憶に残り実際の職場で行動変容に繋がるメンタルヘルス講習を開催するにはどのような内容が良いかなど、取り組むべき課題は多く悩みはつきません。しかしこれまで悩んだときや、新しい活動を検討するときには、他企業の取り組みを知ることが課題解決の重要なヒントになりました。とくに日本産業衛生学会では毎年さまざまな企業の取り組み事例が発表されていること、また多くの産業保健スタッフの交流の場となっていることから、参加するたびに貴重な気づきと学びを得ています。今後は産業保健の知識を深めながら、微力ではございますが、日本産業衛生学会の地方会理事として学会活動を通じて産業保健全体の発展に貢献できるよう精一杯努めて参りたいと思います。ご指導ご鞭撻の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

新理事就任のご挨拶

株式会社 豊田自動織機 産業医 平野 貢
桶狭間病院藤田こころケアセンター 精神科



この度、日本産業衛生学会東海地方会の理事を拝命致しました。私は文系大学を卒業後、会社員として過ごした後に、縁あって医師となり、2011年より豊田自動織機の産業医として着任しました。また、桶狭間病院藤田こころケアセンターでは企業におけるメンタル対策を臨床の現場から学習させていただいています。

産業医として活動しています豊田自動織機は豊田佐吉が発明した自動織機を始めとしてフォークリフト、コンプレッサー、ディーゼルエンジン、電子部品、完成車(RAV4)など様々な部品、製品を製造しています。其々の製品の製造現場では作業環境、作業姿勢に大きな違いがあり、特色に応じた多面的な対策が必要になっています。

会社員時代に生産管理を担当していた頃、製造現場の方からものづくりは現場で行われているのだから、疑問があったり、理解出来ない事があったら現場に來なさいと言われてました。第13次労働災害防止計画の重点事項にあります「転倒転落」「機械設備に起因する災害」「過重労働」「メンタルヘルス」「熱中症」「高齢化」「疾患を持った方の就労」「化学物質」などへの対策取り組みは事実(現場、現物、現実)即して物事を客観的に見る姿勢から見つけられる「現地現物の考え」が役に立つと思います。

学会員皆様と議論、協力をしていく事で多くの方々健康で快適な環境の下で仕事出来る礎を築けるようになればと思います。理事として経験も知識も浅く至らない点もあるかと思いますが、微力ながら産業保健全体の発展に寄与できたら幸いです。皆様のご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

産業保健 10年目の節目を迎えて

矢崎総業株式会社 ウェルネス推進プロジェクト 保健師 山本 郁美



皆様、はじめまして。矢崎総業株式会社ウェルネス推進プロジェクトで保健師をしております、山本郁美と申します。2010年4月に入社し、今年10年目に突入いたしました。弊社では「人を大切に」という経営層

の思いから、2015年6月にウェルネス推進プロジェクトが5年間の有期プロジェクトとして設立され、私も産業保健部門としてメンバーの一員となりました。身体的、精神的、社会的、環境的、職業的に健全な組織と健康な人づくりを方針として、組織と個人の活性化に向けた教育研修や職場改善、メンタルヘルス対策等の活動を行っています。

産業保健10年目の節目を迎え、今年初めて、産業衛生学会全国協議会でのポスター発表に挑戦してみようと思います。これまで日々の業務に追われる中、なかなか一人で挑戦できずにいましたが、東海地方会の学術

研究推進委員の先生方に暖かいご指導いただき、挑戦することが出来ました。心から感謝を申し上げます。また今年度、静岡障害者職業センター精神・発達障害者雇用支援連絡協議会の委員となりました。今後、行政、精神科医療、産業保健、福祉の連携強化に努めるとともに、現場の声として個々の状況やニーズをあげ、職場復帰支援やジョブコーチによる支援等をより良くできるようお手伝いできればと考えております。

社内だけで対応することが難しいこともあります。行政や公的機関、医療機関、EAPなど外部と連携することにより、できる支援の幅が広がってきたと思います。今後も、ネットワークの更なる構築を目指し、新しいことに積極的に挑戦していきたいと思います。また、働く人たちが働くことで活力をもらい、自分らしく生きていくことができるよう支援していくために、日々努力し、成長していきたいと思っております。今後とも宜しくお願い致します。

事務局から

地方会理事会

平成 30 年度第 3 回理事会

日時：平成 31 年 1 月 12 日（土）10:00-12:00

場所：中部大学名古屋キャンパス 6 階 610 号室

【議題】

I. 前回理事会議事録（案）の確認

II. 協議事項

- 1) 学会の目指す方向性について
- 2) 本部よりの地方会助成金について
- 3) 事務局機能について
- 4) 次回の理事会日程について
- 5) その他

III. 報告事項

- 1) 平成 30 年度地方会学会開催報告
- 2) 第 31 回産業保健スタッフのための研修会準備状況報告
- 3) 平成 31 年度地方会学会準備報告
- 4) 選挙関連について
- 5) 本部理事会報告
- 6) 地方会事務局報告
- 7) 地方会活動方針検討委員会
- 8) 学術研究推進委員会
- 9) 編集委員会
- 10) 研修会企画委員会
- 11) 表彰制度推薦委員会
- 12) 部会報告
- 13) 研究会報告
- 14) 各県の活動報告
- 15) その他報告事項
- 16) 関連学会等開催情報
- 17) その他

令和元年度第 1 回理事会

日時：令和元年 6 月 29 日（土）10:00-12:00

場所：中部大学名古屋キャンパス 5 階 510 号室

I. 前回理事会議事録（案）の確認

II. 審議事項

- 1) 前回理事会議事録について
- 2) 新体制について（地方会長推薦理事含む）
- 3) 顧問および、他団体、特に各県医師会との関係について
- 4) 2018 年度活動報告と 2019 年度活動計画について
- 5) 2018 年度決算報告と 2019 年度予算について

6) 2020 年度地方会学会について

7) 第 31 回日本産業衛生学会全国協議会について

8) 今後の東海地方会の活動について

9) 次回の理事会日程について

10) その他

III. 報告事項

1) 第 92 回日本産業衛生学会開催報告

2) 2019 年度地方会学会準備報告

3) 第 31 回産業保健スタッフのための研修会開催報告

4) 本部理事会報告

5) 地方会事務局報告

6) 地方会活動方針検討委員会

7) 学術研究推進委員会

8) 編集委員会

9) 研修会企画委員会

10) 表彰制度推薦委員会

11) 選挙管理委員会報告

12) 部会報告

13) 職場ストレス研究会活動報告

14) 振動障害研究会の解散報告

15) 各県の活動報告

16) その他報告事項

17) 関連学会等開催情報

18) その他

会員状況

平成 30 年 9 月 1 日～5 月 31 日の推移

(令和元年 5 月 31 日時点)

	愛知県	静岡県	三重県	岐阜県	合計
新入・再入会員	54	15	13	3	85
転入会員	2	2	1	0	5
地方会内転入	3	1	0	3	7
退会会員	-26	-10	-8	-4	-48
転出会員	-7	-3	-4	-1	-15
地方会内転出	-3	-2	-2	0	-7
増減	23	3	-1	1	27
本部正会員	507(4)	223	112	39(1)	881(5)

※()は学生会員を表す

これからの行事予定

2019年度 日本産業衛生学会 東海地方会学会

日時：2019年12月7日(土)
 場所：藤田医科大学
 メインテーマ：エビデンスに基づく健康な働き方
 シンポジウム
 「治療と就労の両立の実現に資する最近の臨床知見」

第29回日本産業衛生学会全国協議会

会期：2019年9月12日(木)～14日(土)
 場所：仙台国際センター
 テーマ：“働きたい”を支える産業保健

国際混合研究法学会アジア地域会議 兼

日本混合研究法学会第5回年次大会

会期：2019年9月14日(土)～16日(月)
 場所：静岡文化芸術大学

第78回日本公衆衛生学会総会

会期：2019年10月23日(水)～25日(金)
 場所：高知市文化プラザかるぼーと 他
 テーマ：実践と研究との協働の進化
 ～マインドとコンピテンシー～

日本産業看護学会 第8回学術集会

会期：2019年10月26日(土)～27日(日)
 場所：関西医科大学
 テーマ：ダイバーシティの実現に向けた産業看護の力
 -すべての人の多様な働き方を支えるために-

第27回日本産業ストレス学会

会期：2019年11月29日(金)～30日(土)
 場所：大阪市中央公会堂
 テーマ：産業ストレスと法
 ～多職種の共働による予防法務の確立に向けて～



編集後記

コンビニに行けば24時間いつでも必要な商品を購入できる現代社会は、24時間働き続ける多くの人たちに支えられています。また、オリンピックに向けて活況を呈する建設現場にも昼夜を問わず多くの労働者が働いています。そこには高齢者、外国人や非正規従業員等多様な労働者が活躍していますが、現状は十分な産業保健が提供できているか疑問が残ります。先日の総会でも議論されましたが、社会に適応した産業保健を提供するために知恵と力を合わせていく必要があることを感じます。

赤津 順一

東海地方会ニュース

編集委員長：池田友紀子(キヤノン)
 副編集委員長：西谷 直子(名古屋大学)
 編集委員：赤津 順一(日本予防医学協会)
 榎原 毅(名古屋市立大学)
 河南 文子(富士電機)
 後藤 由紀(四日市看護医療大学)
 近藤 祥(聖隷健康診断センター)
 榊原 洋子(愛知教育大学)
 菅沼要一郎(浜松ホトニクス)
 城 憲秀(中部大学)
 山本 誠(ヤマハ)

東海地方会事務局

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町2-1-25 JTBビル7F
 株式会社 JTB コミュニケーションデザイン
 ミーティング&コンベンション事業部内
 FAX: 06-4964-8804 E-mail: jsoh-tokai@jtbcom.co.jp

印刷・製本

〒675-0055 兵庫県加古川市東神吉町西井ノ口601-1
 有限会社トータルマップ
 TEL: 079-433-8081 FAX: 079-433-3718